

## 東京すくわくプログラム活動報告書②

### 〈テーマ設定の理由〉

マットや肋木、ハシゴ、巧技台等、色々な設定を組み合わせることで、子どもたちがどのようにイメージを持ち、からだを使って遊ぶのか。一人一人の体の動きや、イメージ、また友達同士で遊びがどのように広がっていくのかを見ていく。

普段の生活から踏ん張る力や足首の硬さがある子が多いので、自分の体をしっかり支えることや足指でしっかり地面を蹴ること、手を使うこと等も意識をしながら設定を組んでいく。体を育てることでイメージも広がっていくので子どもたちの姿や、対話も通して取り組んでいく。

自分の体をしっかり支えること、低い姿勢でしっかり足指を立てること等、体の使い方が上手になってきたので細かいところを意識できるように楽しく設定で遊ぶ中で促していく。

園名：社会福祉法人たつの子の会  
羽村しらうめ保育園  
活動日時：令和7年9月5日  
午前中  
クラス名：ぞう組（5歳児クラス）  
年間テーマ：設定遊び

### 〈活動スケジュール〉

午前中のおやつを食べた後、ホールで設定遊びを行う。

### 〈環境をデザインする・探究活動の実践〉

子どもが視覚的に面白そうと思えるように、空間を広く使って設定を組む。梯子は高めにし、一本橋は低くから始めるように、それぞれ高さを変えて自分で選んだ好きなところから始められるようにしていった。

一方通行にして怪我のないよう見守っていった。

一本橋を二本使ったことで、高這いで登ったり腕に挟んで進むなど自分で姿勢を変えながら楽しむ姿も見られた。棚から跳んで着地する場所を布団山にすることで感触を楽しめるようにした。着地するとき転がる姿も多かったのでトンネルの中にも布団を入れて転がる楽しさを入れていった。子どもたちはたくさんの布団の上で友達と一緒に転がりながら遊んでいた。途中からジャンプするところに輪を置き、ジャンプする楽しさを取り入れた。子どもたちはそこをめがけて跳んだり、輪の位置を自分で変える等しながら、ゲーム感覚で繰り返し楽しんでいた。

布団山の感触を楽しんでいたため、最後にトランポリンのようにみんなで跳んだり、転がったりして体を動かしていった。

### 〈活動の為に準備したもの〉

- ・体技台 ・梯子 ・一本橋
- ・ロールマット ・マット
- ・布団棚 ・肋木 ・肋木板
- ・フラフープ ・布団



### 〈振り返り〉

- ・まずは大人が楽しそうと思えるものを作った後に、子どもの姿を見て好きな所を増やしていったことで、繰り返し楽しんで遊ぶことができた。
- ・空間全体を使って設定を組んだことで、たくさん体を動かしながら遊んでいた。
- ・色々な渡り方や跳び方で楽しめるように見守り方や環境の作り方を工夫していった。
- ・トンネルは短いものを2つ作ったことで形や内容を変えることができ、子どもが楽しみながら低い姿勢を促すことができた。
- ・跳び方も高いところから跳ぶだけではなくけんけんぱを作ったりしたことによっていろいろな楽しみ方ができたのではないかと。
- ・自分で好きなところを選べるようにしたので子ども自身が見て楽しそうと思えるところで繰り返し遊ぶことができた。